

松田幼稚園の認定こども園化と、 学童保育の待機児童について



質問者
北村 和士 議員



質 少子化により児童数の減少が見込まれる一方、共働き世帯の増加により、安心して子どもを預けられる環境整備の重要性は高まっています。

まずは、松田幼稚園の認定こども園化について、目的と今後のスケジュールを伺います。

答 松田幼稚園の認定こども園化については、町が培ってきた幼稚園教育の良さを継承しつつ、長時間保育などの保護者ニーズに対応するため、検討している。今年7月に関係者説明会を行い、来年4月1日の開園を目標に調整を進める。

質 認定こども園化して、保護者や子ども達にとって何が変わりますか。

答 検討中だが、こども

園化となれば、2号認定のお子様を受け入れることになるため、保育時間が長くなり、長期休業中の受け入れが拡充される。具体的には子ども・子育て支援事業計画策定の際のアンケートや保護者説明会等での要望にできる限り対応していきたい。

A
長時間保育などを求める保護者ニーズに対応していく

回答 (町長)



質 学童保育では、利用希望者の増加に伴い待機児童が生じています。現状と対応策を伺います。

答 登録児童数が定員

160名を超え、待機児童は7名である。待機児童の解消は、保護者が安心して働き続けるための重要課題であり、利用実績が少ない家庭には登録の見直しを個別にお願いしている。また、長期休暇中の一時的な受け皿、地域資源や民間事業所の活用も含めて、待機児童解消に向けて対応する。

質 待機児童は「小1の壁」として保護者の就労継続にも関わる切実な課題です。特に夏休みなど長期休暇中については、保護者の対応方法も調整しなければならぬため、早期に受け入れできるのかの方向性を示すべきではないでしょうか。

答 保護者が勤務調整や代替手段を検討できるよう、6月末を目安に受け入れの可否を含めた情報提供に努める。来年度以降どう対応するかについては、子ども・子育て支援会議で課題整理を行い、検討する。

松田町の 地域公共交通について



質問者
吉田 功 議員



質 実証実験を終了したA-オンデマンド交通の実証実験者の主体は誰であったのか。

答 法定協議会である「松田町地域公共交通会議」およびその専門部会である「足柄広域新モビリティサービス推進協議会」において議論された後、策定された「足柄広域新モビリティサービス事業計画素案」に基づき実施することになった。事業発注者は「松田町」であり、事業の受注者は「(一社) 足柄オンデマンド」である。

質 どの様な経過で、(一社) 足柄オンデマンドに委託されることになったのか。

答 足柄広域新モビリティサービス推進協議会

A
町は利用促進に向けた支援を継続してきた

回答 (町長)



の未払いを把握した時期とその対応、およびパスポートの払い戻しができなかった町民への対応について。

答 再委託先である交通事業者への支払いの把握時期は、令和6年の11月頃に非公式の場にて話を伺ったと町職員から報告を受けた。利用者の皆様が購入されたパスポート等の払い戻しについては、責任を負う同法人より、希望されるすべての利用者への払い戻し手続きが令和8年4月末時点において完了したとの報告を受けている。

